

J R 東海労申第 1 8 号
2 0 1 7 年 1 0 月 1 3 日

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 柘植 康英 殿

J R 東海労働組合
中央執行委員長 小林 光昭

神戸製鋼所のアルミ製品のデータ改ざん問題に伴う車両への影響と安全に関する
申し入れ

マスコミは、10月9日、「神戸製鋼所によるアルミ製品のデータ改ざん」について報道した。その中で、「J R 東海は、データの改ざんが発覚した神戸製鋼所のアルミ製品が東海道新幹線の台車の部品に使われていたと明らかにした。対象の車両数など詳細は調査中。J R 側が改ざん前のデータを入手し検証した結果、強度を含む走行安全性に問題はないという。J R では今後、正規品との交換も検討する。」と報道されている。

J R 東海労は、データが改ざんされたアルミ製品が車両に使用されていることで、車両の安全に重大な問題が起きたと考える。何よりも乗務員と乗客は、マスコミの発表によって大きな不安感を抱いている。早急に安全を確保することを第一に考え、万全な安全対策を講じるために下記の通り申し入れるので、すみやかに労使協議を行うこと。

記

1. 「アルミ製品のデータ改ざん」について、神戸製鋼所から説明された内容を明らかにすること。
2. データが改ざんされたアルミ製品が扱われている部位、個数、車両編成、納入年月日を明らかにすること。
3. データが改ざんされたアルミ製品が明らかになって以降、そのアルミが使用されている部位の点検を実施したのか明らかにすること。又、点検を実施したのであれば、具体的な日時、部位、編成を明らかにすること。
4. 報道では「J R 側が改ざん前のデータを入手し検証した結果、強度を含む走行安全性に問題はない」とされているが、「問題はない」とするその根拠について明らかにすること。又、「問題はない」とされているにもかかわらず、なぜ「今後、正規品との交換も検討する」のか明らかにすること。

5. 乗務員、乗客が安心して乗車できるよう、データが改ざんされたアルミ製品は全て交換すること。
6. 会社としての当面の対策を明らかにすること。

以 上